

21	課題番号	研究課題名	研究代表者	評価結果
	15106008	マルチスケール解析に基づく構造－地盤連成系の長期性能予測プラットフォームの開発	前川 宏一（東京大学・大学院工学系研究科・教授）	A
<p>(意見等)</p> <p>本研究の目的を達成するために設定した7つの研究対象に関する個別の課題に対して精力的に取り組み、微視的視点から巨視的視点にいたる同一の解析システムの構築を着実に進めている。</p> <p>個別の課題に対する研究成果は国際的学術誌や国際会議 Proceedings 等に数多く発表され、その中には学会賞の受賞論文も含まれており、その学術的価値は高く、世界的レベルにあると判断される。その成果を一般の研究、あるいは実務の土木設計・施工に応用するためには、さらなる検証に基づく精度の向上と普及性・波及性の視点に立った分かりやすい解説が求められる。</p> <p>今後の研究計画・方法については、7つの研究対象のうち、補修補強効果と腐食速度のモデルに関する研究計画の充実が望まれるが、研究の枠組みがしっかりとしているので、概ね妥当であると判断される。また、基本となる解析技術ができていますので、当初の研究目的の達成は期待できる。研究経費については、計画通り適切に使用されており、問題はない。</p> <p>以上のように、本課題に対する研究はほぼ順調に進んでおり、また、今後の研究計画、方法も妥当と考えられ、現行のまま推進すればよいと判断する。なお、研究成果として期待されている一般的なプラットフォームの開発に関して、個別の課題が並列的で連携が見えにくいので、得られた成果を総括し、より分かりやすく平易な説明を行い、実際に広く使用されるようにすることが望まれる。</p>				
22	課題番号	研究課題名	研究代表者	評価結果
	15106009	乾政宮の復元的研究－ユネスコ世界遺産・フエの歴史的建造物群の保全計画－	中川 武（早稲田大学・理工学術院・教授）	B
<p>(意見等)</p> <p>我が国と異なる政治体制下での世界遺産の共同調査にも拘わらず本研究課題は全体では、概ね順調に研究が進捗していると判断できる。研究計画調書に記載されている“基礎的研究項目”は概ね計画通りであるが、“応用研究項目”については、未着手や計画変更が存在している。</p> <p>これまでに多くの研究成果が得られている事は、研究状況報告書に記載されている大会・支部での多くの口頭発表等によって明らかであるので評価できる。今後これらの研究発表を“論文”としての一層の評価を受けて公刊して行くことを強く望みたい。</p> <p>応用研究項目に関し、①については、具体的な発掘調査の開始、②については、復元設計研究への変更、③については、振動特性解析の実行に際し本研究組織以外の研究者の協力体制の明確化が必要となる。これらの点を含んだ今後の研究計画に基づく研究の推進に対して一層の努力を望みたい。</p>				